

# 第1章-1 古代オリエント世界

※ Orient = 太陽の昇る所 (ラテン語)

## 1. エジプト文明

※古代ギリシアの歴史家ヘロドトスの言葉「エジプトはナイルの賜物」 『歴史』第2巻4節

- ナイル川 ……7～10月の定期的増水により上流から沃土が供給される  
はやくから多くの村落(ノモス)が形成される
- 閉鎖的地形……外敵が侵入しにくく、単一民族による統一王国が続く

### <歴史>

BC.2850頃、メネス王による上下エジプト統一

※王(ファラオ)……太陽神ラーの化身として神権政治

▶古王国時代 ……27～22c.BC. 首都 メンフィス (現カイロ付近、河口近い)

ピラミッド ……王の埋葬・祭儀の施設  
巨大なものは古王国時代のみ建設

※ギザの3大ピラミッド

第4王朝第2代 クフ 王(最大)、第4代カフラー王、第7代メンカウラー王

▶中王国時代 ……22～18c.BC. 首都 テーベ (上流へ)

BC.17世紀 地中海東岸から遊牧民 ヒクソス の侵入を受ける

▶新王国時代 ……16～11c.BC. 首都テーベ、ヒクソス撃退し独立回復

BC.14世紀 アメンヘテプ4世 (アクエンアテン) の宗教改革

従来のアメン=ラー信仰を禁止し、アテン 神1神のみの信仰へ  
テーベから テル・エル・アマルナ へ遷都  
新しい写実的文化 (アマルナ美術)  
妃ネフェルティティ (ミタンニ王国出身?) の胸像

→王の死後、子の ツタンカーメン 王の時にすべてもとに戻される

9才で即位、18才で死去。王陵の谷から王墓発掘。そのミイラに黄金のマスク。

最後の盛期……ラメス2世 (1290-1224BC、60年の治世、100人の子女!)

1286BC頃、地中海東岸カデッシュでヒッタイトと戦いその南進阻止

### <文化>

・文字 …… エジプト象形文字は次の3種類からなる (①→②→③と簡略化)

①. ヒエログリフ、②. ヒエラティック、③. デモティック  
(神聖文字) (神官文字) (民衆文字)

※1822年、シャンボリオン (フランス) が、ロゼッタ・ストーン を解読

(↑ナポレオン軍が1799年に発掘)

プトレマイオス5世碑文(BC.196)……上段ヒエログリフ、中段デモティック、下段ギリシア文字

・筆記用具…… パピルス (→paperの語源)

・暦 …… 太陽暦 →ヨーロッパの「西暦」  
カエサルがエジプトからローマにもたらす(ユリウス暦)  
→1582年、グレゴリ暦に改訂

・数の数え方 十進法

・測量術…… 洪水後の区画整理のため発達 →ギリシアで幾何学に発展

・宗教 …… 太陽神 ラー、首都テーベの守護神 アメン の信仰

「死者の書」……死者の生前の善行をパピルスに記し墓に副葬したもの  
死後を司るオシリス神に提出。有罪とされると魂が復活できない。

## 2. メソポタミア文明

Mesopotamia・・・ギリシア語の mesos (間) + potamos (川) = 川の間の地

ペルシア湾に注ぐ ティグリス川・ユーフラテス川 (現イラク)  
最古の農耕遺跡 ジャルモ遺跡 もある

※ 「肥沃な三日月地帯」 (Fertile Crescent、米ブレステッドが命名)  
メソポタミア+地中海東岸シリア・パレスチナまで

開放的な地形のため、諸民族入り乱れて複雑な歴史 (←「バベルの塔」伝説)  
メソポタミア～アラビア・・・セム語族  
北・東の山岳地帯・・・インド=ヨーロッパ語族

### <文化>

- ・文字 …… 楔形文字 ……粘土板に刻む  
シュメール人による発明当初は表意文字 (絵文字)  
→のちの諸民族が表音文字として使用
- ※ 1846年、ローリンソン (英) が ベヒストゥーン碑文 を解読  
(↑ダレイオス1世の業績を記したもの)
- ・数の数え方 六十進法
- ・暦 …… 太陰暦  
月の満ち欠けを基準 ※純粋太陰暦はイスラム暦のみ (1年=354日)  
ただしそれだけでは季節がずれるため「閏年」も発明 (=太陰太陽暦)  
→アジア諸地域に広まる
- ・七曜制・・・旧約聖書「創世記」伝説の舞台がメソポタミアである証

### <歴史>

- (1). シュメール 人 (民族系統不明)  
BC.2700頃までに、ウル、ウルク などの都市国家を建設  
王・神官・官吏・戦士を中心とする階級社会  
ジグurat (聖塔)・・・神殿基盤遺跡
  - (2). アッカド 人 (セム語族)  
BC.24世紀、サルゴン王に率いられシュメール都市を征服
  - (3). アムル 人 (セム語族)  
BC.19世紀、バビロン 第一王朝  
第6代 ハンムラビ 王 (BC.18c)・・・全メソポタミア支配  
「ハンムラビ法典」制定 全282条  
刑法・・・復讐法の原則、身分差の刑罰  
(“目には目を、歯には歯を”)
  - (4). インド・ヨーロッパ語族の諸民族が中央アジアから大移動 (BC15世紀を中心とした時期)  
→インド、→ギリシア
- ①. ヒッタイト 人 (インド・ヨーロッパ語族)・・・アナトリア (小アジア) に建国  
史上初めて鉄の武器を使用、馬にひかせた戦車  
バビロン第一王朝を滅ぼす →エジプト新王国とシリアで戦う
  - ②. カッシート 人 (民族系統不明)・・・メソポタミア南部に建国
  - ③. ミタンニ 王国・・・メソポタミア北部  
(印欧系の王の下でフルリ人が建国した、とされるが異説あり)

以後、数世紀にわたって混乱続く

### 3. 地中海東岸（シリア・パレスチナ地方）

エジプトとメソポタミアを結ぶ通商路、地中海貿易の拠点  
→ BC.1500 年頃からカナン人（セム語族）の活動

↓  
BC.13 世紀頃、エジプト・ヒッタイトの両勢力が後退し、下のセム系 3 民族が活動

- ▶ アラム人 ……中心都市 ダマスカス  
内陸交易に活躍……アラム語は古代オリエント世界の国際商業語  
アラム文字は西・中央アジアの諸民族の文字の起源
- ▶ フェニキア人 ……中心都市 シドン、ティルス  
海上交易に活躍……主要輸出品は“レバノン杉” → 乱伐で砂漠化  
地中海西部に植民地建設……その中心 カルタゴ（北アフリカ現チュニジア）  
フェニキア文字……カナン人の表音文字を線文字化  
ギリシア人に伝える → アルファベット の起源

- ▶ ヘブライ人（自らはイスラエル人と称する。“ユダヤ人”）

BC.1500 頃、パレスチナ定住。一部はエジプトへ → 新王国の圧政に苦しむ

↓  
BC.13c. “出エジプト” ……預言者 モーセ に率いられエジプト脱出  
→ この時、唯一神 ヤハウェ から “十戒” を授かる

BC.1000 頃 ヘブライ王国 建国（初代王サウル）  
→ 第 2 代 ダヴィデ、第 3 代 ソロモン の時に栄える

BC.922 ヘブライ王国 南北分裂

北……イスラエル 王国 → BC.722 アッシリア に滅ぼされる  
南……ユダ 王国（サルゴン 2 世）

↓  
BC.586 “バビロン捕囚”  
ユダ王国が 新バビロニア に滅ぼされ、民衆はバビロンに強制連行

BC.538 アケメネス朝 ペルシアにより解放され帰国

→ ユダヤ教 の確立……首都 イェルサレム に神殿再建  
特徴……一神教、偶像崇拜禁止（→キリスト教・イスラム教）  
『聖書（キリスト教の 旧約聖書）』の編纂、救世主（メシア）信仰

### 4. オリエント統一

- (1). アッシリア（セム語族）

メソポタミア北部におこる → ミタンニ王国に服属  
ヒッタイトから鉄の武器と戦車を学ぶ

BC.7 世紀前半 全オリエント統一、首都 ニネヴェ

アッシュールバニパル王 (BC.669-626)

ニネヴェに大図書館設立……19 世紀半に発見、「ギルガメシュ叙事詩」  
支配下諸民族を武力で抑圧（洪水・箱船伝説を含む）

↓  
BC.612 帝国 4 分裂

- ・エジプト……第 26 王朝
- ・新バビロニア（セム語族、カルデア人）……メソポタミア支配  
バビロン捕囚（ネブカドネザル 2 世）
- ・リディア（印欧語族）……小アジア、世界初の鑄造貨幣製造
- ・メディア（印欧語族）……イラン高原

(2). アケメネス 朝ペルシア

※ペルシア人……印欧語族イラン人のうち南部のペルシス地方の農耕民を指す

BC.559 初代キュロス2世 (559-529)、メディア王国から独立、首都 スサ (行政中心)

BC.525 第2代カンビセス (529-522)、エジプト征服し全オリエント統一

第3代 ダレイオス1世 (522-486BC)

- ・全国を20余の州に分け、知事 (サトラップ) を派遣して統治
- ・“王の目・王の耳” と呼ばれる監察官に各州を巡回させる
- ・“王の道” (スサ～サルデス間→ギリシア侵略へ)、駅伝制
- ・ペルセポリス に大宮殿建築 (→アレクサンドロスの遠征軍により破壊)
- ・貨幣・文字の統一……楔形文字の完全な表音文字化 (ペルシア文字)
- ・支配下諸民族の宗教や慣習を尊重する柔軟な支配 → 200年間の統一維持

◎その後の歴史……ギリシア世界との長年の対立

BC.500-479 ギリシア侵略 (いわゆる「ペルシア戦争」)

ダレイオス1世、クセルクセス1世 → 失敗

BC.330 アレクサンドロス大王の遠征軍により滅亡

◎ペルシア人の宗教……ゾロアスター 教……二元論的世界観

善=光明の神 アフラ・マズダ vs 悪=暗黒の神 アーマン の戦い

・“最後の審判”で光明神の恩恵により楽園に入ることを願う

・光明神の象徴である「火」を拝む……拝火教

## 5. 古代イランの2王朝 (→ヘレニズムの後に授業)

アレクサンドロス大王死後、アジア部分はセレウコス朝シリア領に

→その後、アフガンに移住していたギリシア人がバクトリア王国建国 (255-139.BC)

↓

(1). パルティア 王国 (248.BC ~ AD.226) ……北部、遊牧イラン人

初代アルサケス……カスピ海東南 (ヘカトンピュロス) に建国

↑ 中国語の国名「安息」は彼の名に由来

BC.2世紀半ばにメソポタミア併合後、クテシフォン に遷都

◎ヘレニズム文化圏……ギリシア語、王の称号は「ギリシア人を愛するもの」

(2). ササン 朝ペルシア (226-651) ……農耕イラン人 (ペルシア人)

初代アルデシール1世……首都 クテシフォン

第2代 シャープール1世 (241-72、「イラン人及び非イラン人の諸王の王」と称す)

260年 ローマ皇帝ヴァレリアヌスを捕虜とする (エデッサの戦い)

5世紀後半、エフタル の侵入を受ける

全盛期…… ホスロー1世 (531-79)

突厥と結んでエフタルを滅ぼす。ビザンツ帝国とも有利に和平

642年 ニハーヴァンド の戦い……イスラム勢力に敗北 (→651年滅亡)

◎イラン民族文化の復興+ヘレニズム文化=国際的文化 (→シルクロード経由で中国・日本へ)

美術・工芸に関しては当時世界一 (特にガラス工芸)

ゾロアスター 教の国教化……教典「アヴェスター」を編纂

ローマで異端とされたネストリウス派キリスト教も広まる

マニ教 の成立……ゾロアスター教、仏教、キリスト教の融合

国内では異端。北アフリカ、中央アジア (ウイグル) へ。

教父アウグスティヌス、アルビジョワ派など異端のキリスト教にも影響